



むつ市長  
8年8ヶ月の

経営



史上最年少

35歳でむつ市長に当選！

むつ市長 宮下宗一郎

情熱と決断と発信で牽引。

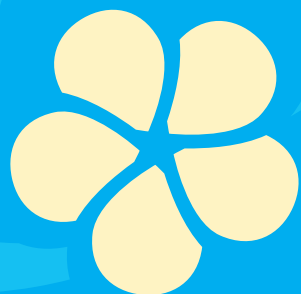
これまでの歩みと実績をわかりやすく。

むつ市

にしかできないこと、  
だからできること、

達成した業績がここに

新しい未来へ  
挑戦



ひとり一人の市民は家族。

これは父の口癖だったと思います。じさまやばさまを父や母のように、子どもたちを我が子のように、年少者は弟妹のように、年長者は兄姉のように、同僚とはいっても笑顔で酒を酌み交わす。

その真ん中にいつも市長がいる。あたたかな市民性といざという時の結束力がむつ市の真骨頂だと私は感じています。

むつ市で生まれ、むつ市で育ち、むつ市に戻ってきました。そして、8年8ヶ月という期間。むつ市のリーダーとしてみなさんに育てていただきました。

コロナという世界を覆った暗闇が私たちを分断した時も、災害の時も私たちは結束することができました。まさに私たちがむつ市という大きな家にいる家族だったからではないでしょうか。

家族のような私たち市民のつながりがこれからも続き、笑顔かがやく希望のまちであり続けて欲しいと心から願っています。

みなさま、どうぞむつ市政への惜しみないご協力をこれからもよろしく願いたします。そして、これまでのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

## CONTENTS

01	活力あるむつ市の創生	3
02	こども子育て・教育環境の向上	9
03	健康まちづくりの推進（地域福祉・医療の充実）	15
04	明日をつくる新しいまちづくり	19
05	スマートシティ・DXの推進	25
06	危機管理・防災力の向上	29
07	経営力の向上	33
08	世界へはばたく むつ市の未来	35
09	新型コロナウイルス感染症対策	41
10	公共事業は地域の礎	47





むつ市の特産品を全国・世界で展開し  
「稼げる地域」を構築



市特産品の販路拡大のため、全国各地や、アジア展開も視野にシンガポールでトップセールスを実施。また、青森県内の大学生がシンガポールの量販店で市特産品のテスト販売を行うなど、精力的にPR活動をしました。





## 新たな価値を創出する企業誘致と 未来を担う創業支援

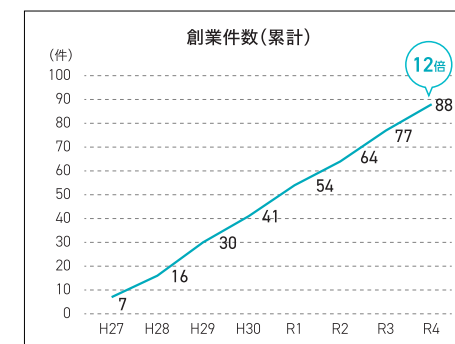
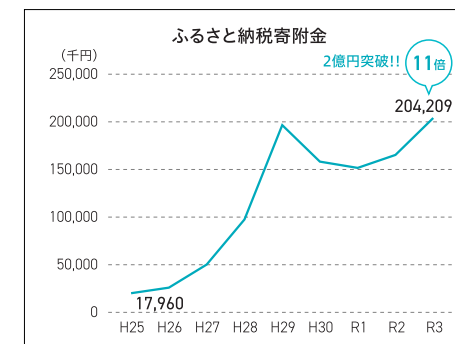


むつ市役所本庁舎内に設置の(株)エスブルグローカルむつBPOセンターや、日本最大のスマート農業の拠点となる(株)寅福など様々な企業の誘致を行い、平成26年以降で雇用者数1.2倍の成果を上げました。



## 産業・経済・雇用対策

- ふるさと納税寄附金
    - ↳ H25/1,796万円
    - ▶ R3/2億460万円 **11倍**
  - 企業誘致件数
    - ↳ H18~H25/3件
    - ▶ H26~R4/8件 **2.7倍**
  - 誘致企業雇用者数
    - ↳ H18~H25/20人
    - ▶ H26~R4/238人 **12倍**
  - 創業件数
    - ↳ H27/7件
    - ▶ R5.1/88件 **12倍**
  - 新規取引件数
    - ▶ H30~R3/73件 (うちシンガポール18件)
- 全国・世界に販路拡大





## 新型コロナで疲弊した むつ市経済を回復

### 新型コロナ経済対策

Ⅱ プレミアム付商品券事業、プレミアム付  
飲食券事業、宿泊キャンペーン、ジオス  
タイルウエディングなど

▶ 89事業を展開  
→ 総額26億円規模



## 下北ジオパークで 地域振興

## ジオ学習を通じて 地域を背負う“志”を育成



### 新たな価値の創造

Ⅱ 下北ジオパーク誕生！目指せ ユネスコ世界ジオパーク!!

- ▶ H28／日本ジオパーク認定
- ▶ H29／台湾野柳地質公園と連携協定を締結
- ▶ R3／日本ジオパーク再認定

Ⅲ AGAP (Aomori Global Advance Project)

↳ 県内大学生によるシンガポールとの交流を通じて、地元の魅力のブランディング・インバウンド・輸出を図る。

▶ むつ下北地域の産業のグローバル化と担い手育成を推進

Ⅳ 夜景観光の磨き上げ

↳ H16／光のアゲハチョウ「日本夜景遺産」認定

▶ H31／釜臥山から臨む夜景「日本百名月」認定

column

## vol. 01 活力あるむつ市の創生

もともと酒屋の息子ですので、売り込みのDNAはありました。稼げる地域にするためですので、実績を常に意識しながら。思いがけない出会いが次の仕事につながっていく醍醐味を感じながら、産業も雇用も経済もコロナ前までは成長を続けました。地域の産品が東京で評価されると本当に嬉しかったです。みんな笑顔でした…。





長年、市民によって望まれてきた高等教育機関を開校。

令和2年4月にはむつ下北初の短期大学「青森明の星短期大学下北キャンパス」が、またこちらもむつ下北で初めての4年制大学「青森大学むつキャンパス」が令和4年4月に開学し、むつ市は大学生がいるまちに！生徒は市内イベントや地域活動で大活躍しています。



下北地域初の高等教育機関の開学、  
市の発展を担う新たな礎



## サテライトキャンパスの大学生の 力と視点で地域活性化



弘前大学と青森中央学院大学とは  
サテライトキャンパスで連携。  
大学生のいないむつ市が地域全体  
で大学生のキャンパスとなりました。



子ども達の夢と未来を開く、  
地域発の教育イノベーション



多種多様な子ども達の夢と  
未来のため、むつ市にいても  
首都圏の子ども達と同じよう  
な教育を受けられるよう、東  
京大学との連携事業「まさか  
り高校プロジェクト」を発足。  
優秀な人材をむつ市から輩  
出し、世界で大きく活躍でき  
る状況を後押しする環境作り  
に取り組みました。



## 教育環境

- 青森大学むつキャンパス開設
  - ▶ R4.4月開学
- 青森明の星短期大学下北キャンパス開設
  - ▶ R2.4月開学
- 弘前大学・青森中央学院大学サテライトキャンパス
  - ▶ H27.10月開始 滞在型学習1,360人受入れ
- 東京大学との連携事業（まさかり高校・下北Project）
  - ↳ まさかり高校医学部進学・特進コース
    - ▶ 316人参加 東大1人合格、医学部5人合格
  - ↳ 下北Project
    - ▶ 1,501人参加 プロ野球選手1人誕生
- 小・中学校全児童生徒にタブレット配布・校内ネットワーク整備（GIGAスクール構想）
  - ▶ 100%配布・整備完了（R4）
- むつ市版総合型地域文化・スポーツクラブの創設
  - ↳ 中学校部活動を「全員加入制」から「任意加入制」へ（R5～）
  - ↳ 中学校部活動を順次地域に移行（R5～）

むつ下北初の  
4年制大学

むつ下北初の  
短期大学

むつ市初



## こども子育て

- 18歳までの子ども医療費の無償化
  - ▶ 通院0円、入院0円、お薬0円
- 保育施設のおむつ無償化
  - ▶ 0歳児クラスの子どものおむつ・おしりふき無償提供
- 市内保育園待機児童の解消
  - ▶ H27年度49人→R3年度0人
- 特定不妊治療費助成制度の創設（1回当たり最大5万円支給）
  - ▶ 計155件利用（H30～R5.1月）

R5年度  
スタート

R5年度  
スタート

解消



妊娠から出産、子育てまで  
切れ目のない子育て支援



column

vol. 02

こども子育て・教育環境の向上

全国大会などで成果を収めた子供達の発表を聞くのが好きでした。いつも目の奥が輝いていてまっすぐで。そして、その先に私たちの地域の未来があるような気がします。短大と大学の誘致によって生涯を完結できるむつ下北に一步近づいたことが嬉しかったです。自分の子供たちの運動会や学芸会には忙しすぎてほとんど行けませんでした。



# 03

奇  
挑 戦 の 軌 跡

推 進

健康まちづくりの

地域福祉・  
医療の充実



一人ひとりの健康意識が向上し、  
健康づくりの輪が広がる元気なまちへ



## 地域福祉

- 弘前大学と連携し、健康寿命延伸へ
  - ▶ 健康づくり宣言 (H27.1月)
    - 来場者数1,200人
- すこやかサポート認定事業所数・従業員数
  - ▶ 延べ55事業所・延べ3,097人 (R5.2月現在)
- 認知症サポート団体数・事業所数
  - ▶ 18団体・42事業所 (R5.2月現在)
- 高齢者等見守りネットワーク締結事業者数
  - ▶ 124事業所 (R5.2月現在)



## 医療の充実

Ⅱ 弘前大学医学部「むつ下北地域医療学講座」開設等

- ▶ むつ総合病院医師数 H29/40人→R4/46人 6人増
- ▶ 応援医師確保（弘大病院等から）延べ16,497人（H26～R5.1月）

Ⅲ 弘前大学との連携による遠隔医療の推進

- ▶ 遠隔ロボット支援手術の実証実験の実施（R3）
- ▶ 透析治療を遠隔管理する医療支援を実施（R4）

Ⅳ むつ総合病院における医療環境の充実

↳ 血液浄化センターの供用開始（H29）

- ▶ 病床数 供用開始前 30床→供用開始後 50床
- ▶ 人工透析件数 16,236件/年（H26～H28）  
→ 22,619件/年（H29～R3）

Ⅴ 新病棟建設（現在実施設計中）

- ▶ 令和8年度供用開始予定



## 地域医療を担う医師確保、 遠隔医療技術の活用



弘前大学医学部「むつ下北地域医療学講座（寄附講座）」開設による常勤医師を確保で、消化器内科、内分泌代謝内科、整形外科、脳神経外科の医師6人を増員しました。

column

## vol. 03 健康まちづくりの推進

私も父の急逝によってこの立場になりました。同じ想いを市民の方々にさせたくない。心の底からそう感じて、健康づくりに取り組みました。市内企業を認定のために訪問する都度、健康の輪が広がることを実感。

市民運動では、一緒にウォーキングしたり、市保健師の愉快的健康講話を聞いてみんなで笑ったり…。健康にとって本当に重要なのは人生を楽しむことだということなのかもしれません。



世界のむつ市へ  
ジオパークなどの取り組みを通じて  
国連開発目標SDGsへ貢献



地域のできる世界のこと。いつも  
そのことを意識して、世界のむつ市  
を目指してきました。一人ひとりの力  
は小さいけれど、力を合わせれば大  
きく育つ。5万人都市のチャレンジ  
はいつも県内でも日本国内でも注目  
を浴びました。





## SDGs推進により世界に貢献

### Ⅱ SDGsを「見える化」し、取組を推進

- └ R4.4月／むつ市SDGs推進宣言
- └ R4.5月／むつ市地方創生SDGs推進協議会設立
- └ R4.8月／むつ市地方創生SDGs推進シンポジウム開催  
むつ市地方創生SDGs推進団体募集開始

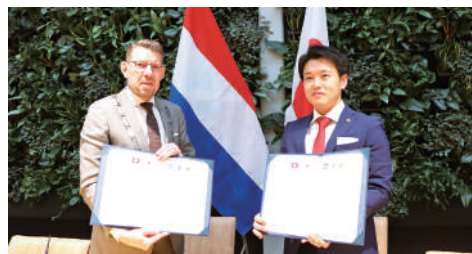
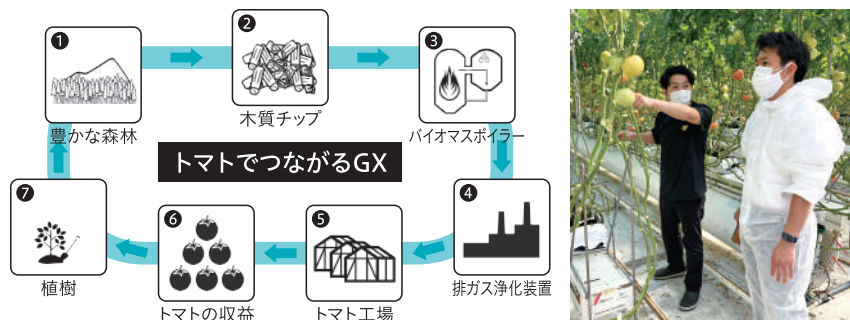
▶ 地域が一丸となってSDGsと地方創生を推進する体制を構築



先端技術を活用したスマート農業の  
一大拠点にするための基礎を築く

バイオマスボイラーの排ガスを浄化した  
クリーンCO<sub>2</sub>をトマトの光合成に利用。  
売り上げの一部を植樹費用に還元し、  
植樹を促進することでカーボンマイナスを  
実現します。





## 脱炭素×スマート農業の推進

### 日本最大のスマート農業拠点→日本の食料供給基地化

- └ R4.11月／(株)寅福・青森県との立地協定締結
- └ R5. 1月／オランダ・ウエストラント市と「施設園芸農業に関する友好交流基本合意書」締結
- └ R5. 4月／トマト工場建設開始予定
- └ R6. 4月／トマト工場稼働開始予定

- ▶ 耕作放棄地でICT技術等の先端技術活用により生産  
→1,500t/年生産(トマト1,000万個分)
- ▶ ボイラー排出CO<sub>2</sub>の農業利用と植樹・間伐等による森林再生  
→4,500t/年 CO<sub>2</sub>吸収  
→カーボンマイナスを実現
- ▶ 100人雇用予定

通常の  
10倍

乗用車  
約2,000台分

## コンパクトでにぎわいあふれるまちづくり

- ┌ 居住空間と都市機能の集約でアゲハチョウかがやくまちへ  
└ H30／国土交通省地方再生コンパクトシティモデル都市認定

### ▶全国で32都市

- ┌ R3 /国土交通省新しいまちづくりモデル都市認定

### ▶全国で13都市 北海道・東北・関東で唯一

- ┌ むつ市総合アリーナ(むつマエダアリーナ) 供用開始(R2.9月)  
└ 利用者数 138,507人(R2.9月～R4.12月)

- ┌ (仮称)田名部まちなか団地整備(建設工事中)

- └ R5.9月供用開始予定

### ▶官民連携(PPP/PFI)で建設・運営

- ┌ 公共交通ネットワークの充実

- └ むつ市高齢者無料乗車証事業(AGEHA)

### ▶75歳以上バス等無料化(R3.10月～)

→3,291人交付(交付率35.3%)、延べ77,795人利用

- └ 市内ループバス「MUVE」実証運行スタート(R4.4月～)

運賃無料化は  
県内初



2つの拠点地域において、Park-PFI制度を活用したオープンスペースの充実を中心に、社会福祉施設の整備、イノベーション等の新たな拠点となるキャンパス・コワーキングスペース等における大学や地元企業、地域住民との連携による人材育成の推進等、多様な官民連携の取組により稼ぐ力の向上及びゆとりと賑わいのある新たな日常のまちを創出するため尽力しました。

column

## vol. 04 明日をつくる新しいまちづくり

海岸のゴミを拾いながら世界とのつながりを意識できました。マンハッタンの高層ビルで仕事をしていた時よりもずっと身近に世界を感じています。私たちの地域の悲願だった新産業の創出。最後の最後にトマト工場を誘致して日本の食料庫としてのむつ市という夢を残せました。正直、生のトマトをそのまま食べるのはちょっと苦手です…。



災害対策の大きな一歩。  
市職員による「ドローン部隊」を結成



昨今の大雨による災害を受け、災害時にドローンを飛ばし人が立ち入れない被災現場などの状況を把握し、迅速な情報収集と対応に役立て、また、上空からの映像を観光振興にも活用していきたいと令和4年度に結成しました。



## DXの推進によるスマート窓口の推進

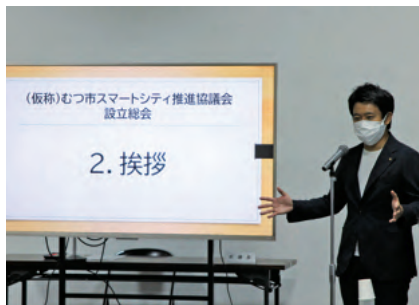
- || 各種証明書が来庁しなくても受取可能な「コンビニ交付システム」の導入  
▶ R4年度システム構築 → R5年度運用開始
- || 「窓口支援システム」を導入し、来庁者の負担軽減につながる“書かない窓口”を実現  
▶ R4年度システム構築 → R5年度運用開始
- || 相談や検索がスマホなどから容易にできる「AIチャットボット」の導入  
▶ R3.11月運用開始
- || スムーズな貸出のため、すべての図書をICタグ化し、“待たせない図書館”を実現  
▶ R4.2月／図書館ICT化リニューアルオープン
- || デジタル社会のパスポート“ナンバーカード”申請を積極的に支援  
▶ マイナンバーカード申請率 80.28% (R5.1月現在)

県内市部で  
1位



## スマートシティによる企業間ネットワークの推進

- || 「スマートシティ推進協議会」の設立
  - ↳ 経済、教育研究、地域振興、福祉など11関係団体により構成  
→ 官民連携・デジタルの力で地域の課題解決へ



## まちづくり基盤の効率的・効果的な整備推進

- || 「除雪管理システム」構築による効率的な除排雪の実現  
▶ R4年度運用開始



## 無駄のない行財政運営

- || RPA (R3年度) やAI-OCR (R2年度導入) などデジタルの導入による業務効率化  
▶ コロナワクチン接種券発行業務などに活用し、  
時間外勤務大幅削減
- || ドローンを活用した迅速効率的な現場確認  
▶ 市職員によるドローンパイロット部隊  
「Swan Wings」結成 (R4年度)
- || テレワークによる新型コロナウイルス感染症対策及び柔軟な働き方の実現  
▶ R2年度試験導入・R3年度本格導入  
→ コロナ対策時 出勤者7割削減達成



西村経産大臣(元コロナ担当大臣)に大規模接種システムを説明しました。

column

## vol. 05 スマートシティ・DXの推進

デジタル化は高齢者の敵と思われがちですが、生活はとても便利になります。先日母にちょっと高度なメール機能を教えたのですが、大変でした。普段、スマホもエクセルも使う母ですが、てこずりました。でも、確実に時代の流れはデジタルへ。防災と連動させて、確実に命と暮らしを守る道筋がついたと考えています。今年から導入した除雪GPS。いつもの年よりも除雪が丁寧であつたらよかったですが…。





『下北の“いのち”をつなぐ』

下北半島縦貫道路～国道279号の早期整備を訴える



下北半島の道路は脆弱です。物流や災害のことを考えると279号は“命の道”として、地域の住民を支える重要な路線です。地域が一つになって高規格化を訴えてきました。少しずつですが完成も見えてきています。



## 国土強靱化

### 下北半島の大動脈「下北半島縦貫道路」の整備促進

- ▶ H28年度／横浜北バイパス (10.4km) 事業化
- ▶ H29年度／吹越バイパス (5.8km) 供用開始
- ▶ R1.12月／むつ南バイパス (むつ尻屋崎IC～むつ東通IC 1.3km) 一部供用開始
- ▶ R4年度／奥内バイパス (11.0km)・野辺地七戸道路 (7.1km) 事業化
- ▶ R5.3月／むつ南バイパス (むつIC～むつ尻屋崎IC 2.1km) 一部供用開始
- ▶ 下北半島縦貫道路整備率【H25年度 28.1%→R4年度 41.3%】

全線  
事業化

### いのちの道路「国道279号」の整備促進

- ▶ R4.8.9／「令和4年度国道279号早期整備促進決起大会」開催 → 関係者約600人参加
- ▶ R4年度中／小赤川橋開通予定

### 防災拠点の整備

- └ R1年度／大湊消防署供用開始
- └ R7年度／防災食育センター供用開始予定（現在実施設計中）
- └ R7年度／デジタル防災センター供用開始予定（現在基本計画作成中）
- └ R8年度／川内・脇野沢消防分署供用開始予定（現在基本構想作成中）



## 災害への対応

令和3年8月9日むつ市・風間浦村豪雨災害

令和4年5月川内町福浦山付近林野火災

令和4年8月3日からの大雨災害



突然襲われた100年に一度の大雨被害。まさかの出来事がむつ市でも。風間浦村と合わせて約800人が一時的に孤立化。命がけの作戦が次々に決行されました。ボランティアの方々の気持ちに触れ、胸が熱くなった思い出が。



伝わる広報を目指して「山火事発生のプロセス」について自らイラストを描き説明しました。



2年連続の大雨災害、そして森林火災。次々と危機は続きましたが、消防・消防団、自衛隊、市職員等の連携により乗り切ることができました。災害の都度、対応力が増す市役所となっています。

column

## vol. 06 危機管理・防災力の向上

私は消防も消防団も大好きです。尊敬もしています。そして、消防団員のみんなと仲良くなれたことが嬉しかったです。出初め、観閲では地域の安全部隊として整然と、その後の懇親会では…。そして、いざ災害になれば真っ先に現場に駆けつけてくれました。本当に頼もしい部隊です。豪雨災害の時、落ちた橋から延寿園まで10kgの水を数100人で運んだ大作戦は一生忘れられない思い出になりました。今でも思い出すと胸が熱くなります…。



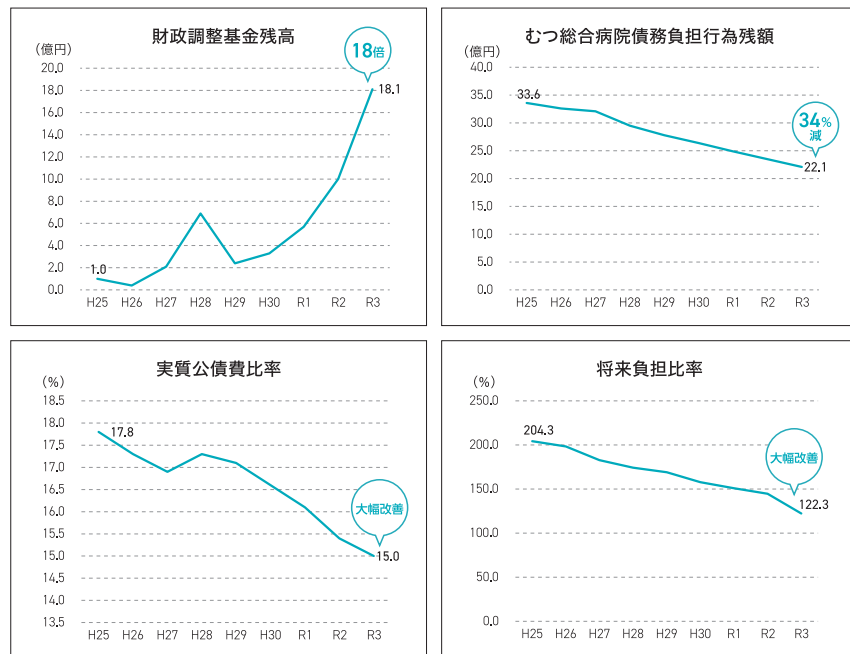
# 向上 経営力の

23年度予算

未来への架け橋

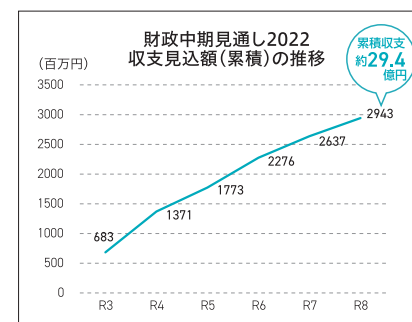


## 財政の改善



- 財政調整基金残高
  - ↳ H25年度／1.0億円
  - ▶ R3年度／18.1億円
- むつ総合病院債務負担行為残額
  - ↳ H25年度／33.6億円
  - ▶ R3年度／22.1億円
- 大畑診療所資金不足額
  - ↳ H25年度／12.9億円
  - ▶ R3年度／0円
- 新たな財源の獲得
  - ↳ 新希望のまち交付金 10億円 (R1～R3)
  - ↳ 使用済燃料税の創設 (R4.9月総務大臣同意)
  - ▶ 年間最大税収額 31億円
  - ▶ 65年間の税収総額 約1,118億円
- 国民健康保険特別会計赤字額
  - ↳ H25年度／7.6億円
  - ▶ H30年度／0円
- 実質公債費比率
  - ↳ H25年度／17.8%
  - ▶ 15.0%
- 将来負担比率
  - ↳ H25年度／204.3%
  - ▶ 122.3%

## 今後の財政見通し



- 累積収支の見込み
  - ↳ R3年度／6.8億円
  - ▶ R8年度／29.4億円

column

## vol. 07 経営力の向上

数字が細かすぎてちょっとよくわからない方もいらっしゃるかもしれませんが、いい業績です^^ 無駄を排除するため日々格闘しました。「もう少し補助金や交付金を頼めないか」「施設維持に無駄な経費はないか。」「有利な起債(借金)の方法はないか」「値上げできないか(市民の皆さん、ごめんなさい)」…。

次の世代への積み残しよりも財産を残せたこと、一定の健全化への道筋がつけられたことが誇りです。本当に資金繰りに困り続けた8年8ヶ月。補助金をもらえそうな省庁を考えながら霞ヶ関をウロウロした日々が思い出です…。



# 世界へはばたく むつ市の未来



包括連携に関する合意書締結式



シンガポール国立大学  
語学教育研究センター × 青森県むつ市



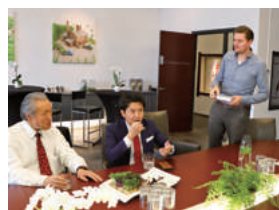
2022年10月24日

宮下  
むつ市

むつ下北地域産業のグローバル化と  
担い手の育成を目指す







## 国際交流・姉妹都市交流

- オランダ・ウエストラント市
  - ↳ 「施設園芸推進に関する友好交流基本合意書」締結 (R5.1月)
    - ▶ 日本最大のスマート農業拠点・日本の食料供給基地化を目指す
- シンガポール国立大学語学教育研究センター
  - ↳ 「包括連携に関する合意書」締結 (R4.10)
    - ▶ アジアトップクラスのシンガポール国立大学留学生の受入れやインターンシップを通じて、むつ市の課題解決
- 台湾・野柳地質公園
  - ↳ 「観光交流・学术交流促進に関する協定(姉妹ジオパーク連携協定)」締結 (H29)
    - ▶ 観光・学術研究の相互連携により世界ジオパークを目指す
- アメリカ・ポートエンジェルス市
  - ↳ 「友好姉妹都市盟約締結」(H7)
    - ▶ ジュニア大使の派遣など長年にわたる友好親善交流により、グローバル人材を育成
- 福島県・会津若松市
  - ↳ 「姉妹都市盟約締結」(S59)
    - ▶ 歴史的な絆により、教育・文化・経済・観光などの相互交流を実施





## 地域との連携

- 下北圏域定住自立圏
  - ↳ 下北4町村と下北圏域定住自立圏形成協定を締結 (H27)
    - ▶ 中心市として、下北全体の発展をリード  
26事業で連携 (R4年度現在)
- 原子力関連施設立地4市町村長懇談会
  - ↳ 国・県に対し、立地地域の厳しい経済状況や課題を訴え、財政支援の必要性等を継続的かつ強力に要請
    - ▶ 国から新たな財源を獲得 新希望のまち交付金10億円 (R1～R3)
- しもきたTABIあしすと(地域連携DMO)
  - ↳ 一般社団法人への移行 (H27)、地域連携DMO登録 (R2) と地域のつながりを深化させ、魅力あふれる「しもきた広域観光」を全国・世界へプロモーション
    - ▶ 年間宿泊者数 H25/136,830人→H30/223,392人
- JR大湊線活性化協議会 (R4.12月)
  - ↳ 大湊線沿線・周辺自治体10市町村で設立 (R4.12月)
    - ▶ 大湊線の利用促進と路線を活用した沿線・周辺地域の活性化策の検討をスタート

コロナ禍前  
最大



column

## vol. 08 世界へはばたく むつ市の未来

ウクライナで戦争が起これば、むつ市民の電気代が上がります。世界は広いようで確実につながっています。そう考えると、むつ市が変われば世界も変わります。

台湾野柳、オランダウエストラント市、シンガポール大との連携は、むつ市の未来を確実に照らす新たな取り組みとなってくれるでしょう。

世界中どこにいてもお酒をたのしく一緒に飲むと自然に仲間が増えます。最近では、英語よりも下北弁の方が得意になりました…。



# 感染症対策

# 新型コロナ

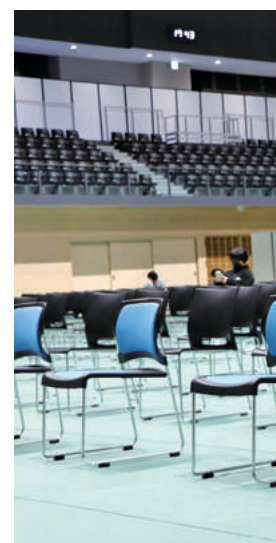
出口の見えないトンネルに  
光を当てたむつ市政  
コロナ禍は本当に戦いの日々だった



全国でも類い稀な対応力、危機管理能力を示したむつ市政。

病床の整備からワクチンの大規模接種、検査センターの創設など、市民目線でその時々に必要な対策を実施。医師会・歯科医師会・薬剤師会をしてすべての市民の皆様の協力のもとに乗り越えました。









## 新型コロナウイルスへの対応

- ワクチン接種事業（プロジェクトG）の完結
  - ↳ 12歳以上のうち初回接種（1・2回目）割合 **89.2%**（1/24現在）
  - ↳ 12歳以上のうち2価ワクチン接種割合 **66.7%**（1/24現在）
  - ▶ **大規模接種 3回（16日間）実施 延べ47,174人接種**
- あんしん飲食店等認定事業（条例の制定）
  - ▶ **1,124事業所認定、365生産者認定**
- 新型コロナ感染症センター開設（R3.6月供用開始）
  - ▶ **完全分離型病床数 0床→20床**
- 感染症患者専用宿泊療養施設開設（R3.8月供用開始）
  - ▶ **0部屋→10部屋**
- PCR検査センター開設
  - ▶ **5,247件検査（R3.12～R5.1）**
- 抗原検査キット配布センター開設
  - ▶ **7,366個配布（R4.8～R5.1）**
- 自宅療養者食料品等買い物支援
  - ▶ **66件（R4.1～R5.1）**
- 処方薬配達支援
  - ▶ **1,309件（R4.8～R5.1）**
- 62ちゃんねる等を通じた情報発信
  - ▶ **会見・資料配信 放送再生回数 約100万回**



column

vol. **09**

## 新型コロナウイルス感染症対策

地域がピンチの時こそ、私は闘志に満ち溢れます。令和3年の豪雨災害、もちろんコロナ禍も。職員はとても大変だったと思いますが、いざという時の市役所としての集中力は結構あったかなと自負しています。ただ、いつも助けてくれたのは市民の皆様です。

私たち市役所の発信を信じて、そして動いてくれました。市民の力を信じる気持ちを育ててくれたのは、皆様です。感謝の言葉しかありません。

大規模接種の実施を迷っていた時にある職員から「今、市長が呼びかければ市民は必ず動きます」と言われたことを生涯忘れることはないでしょう。



10

奇  
挑 戦 の 軌 跡

地域の礎

公共事業は



▲ むつマエダアリーナ(むつ市総合アリーナ) R2.9月供用開始



▲ ムチュ☆らんど(キッズパーク) H27.4月供用開始



▲ 脇野沢小学校 H28.4月供用開始



▲ 関根中学校 H30.8月供用開始



▲ むつ総合病院血液浄化センター H29.4月供用開始



▲ 大湊消防署 R1.12月供用開始



▲ 大橋架替 R4.12月供用開始







▲ 代官山公園整備 (PARK DAIKANYAMA) R4.4月グランドオープン



▲ 新ごみ処理施設 (建設工事中) R6年度供用開始予定



▲ 防災食育センター (現在実施設計中)  
R7.4月供用開始予定



むつ市の明るい未来、  
よりよい暮らしのための  
礎を築きました



▲ むつ総合病院病棟等建替 (現在実施設計中) R8年度供用開始予定



▲ 〈仮称〉田名部まちなか団地 (建設工事中) R5.9月供用開始予定



column

## vol. 10 公共事業は地域の礎

一つひとつの施設を、魂を込めて建設しました。基本計画から設計施工あらゆる段階に市長として関わり納得がいくまで追求したこともよくあります。建物を建てる、公共事業を実施することはそのまま地域の未来を作ることです。中長期的な維持費までをシミュレーションしながら建設するのは「むつモデル」といっても過言ではありません。これからも大いにその成果を発揮して欲しいです。

アリーナでサザンのコンサートが見たかったです…。





## 「妻・宮下悠美からお礼の言葉」

いつも宮下宗一郎を応援いただきありがとうございます。

夫がコロナの間に一貫して続けていたことがあります。それは、毎晩の神社の参拝です。雨の日も雪の日も吹雪の日も続けていました。最初の頃はむつ市でコロナが出なかったことのお礼、出始めてからは明日は出ませんように、今は毎日の日課になっています。

仕事の時はもちろんですが、家の中でも四六時中むつ市のことばかり考えていました。

ただ、少しの休みの時は、長女に勉強を教え、次女とカードゲームで遊ぶなど家族を大切にする普通のお父さんです。62ちゃんねるのまの性格です。

これからも、政治の世界を続けることになりますが、皆様の支え合っの宗一郎ですので、よろしくお願いいたします。

これまでむつ市長として支えていただき、心から感謝申し上げます。

令和5年3月 宮下 悠美

## PROFILE

公選職歴／むつ市長（平成26年6月～令和5年3月）

生年月日／昭和54年5月13日（現在43歳）・むつ市生まれ

学 歴／青森県立青森高等学校卒業（青森市暮らし）

東北大学法学部卒業（平成15年3月）

経 歴／国家公務員Ⅰ種試験（法律職）合格

国土交通省入省（平成15年4月）

↳ 道路局係長・まちづくり推進課課長補佐・建設業課課長補佐・

東北地方整備局用地企画課長

外務省出向

↳ 在ニューヨーク総領事館領事（平成24年6月）

家 族／妻（同級生）、長女（14）、次女（8）、母

その他職歴

一部事務組合下北医療センター管理者（平成26年6月～令和5年3月）

下北地域広域行政事務組合管理者（平成26年6月～令和5年3月）

しもきたTABIあしすと（DMO）理事長（平成28年～令和5年3月）





